

## 【巻頭言】

## 自然と防災と被服衛生学

薩本弥生

横浜国立大学教育学部

## 1. 自然から学ぶ被服衛生学

夏休みに知り合いに誘っていただき、初めて長岡の花火大会を栈敷席で見る機会に恵まれた。隅田川の花火、鎌倉の江の島の花火など、これまで見た中で最も本格的で夜空にまばゆい光の演出でいろいろな色の光で花やハートなどの軌跡が描かれ、音楽との共演もあり、魅惑された。その日は知り合いのお寺に宿泊させていただき、通風をしてカエルの鳴き声を BGM に自然の中で眠りについた。自然と近い環境で過ごした感じがして、心地よかった。一方、自宅では温暖化のためなのか、猛暑で気温が高い日が続き、たまらず寝室に一晚中エアコンをつけて寝ていた。エアコンをつけて寝れば安定した温湿度制御で外界と遮断された環境で過ごせるが、朝方の冷え過ぎが気になるのと、自然に囲まれた時の寝心地を思い出し、9月に入ってからタイマーで寝る前にエアコンで室温を冷やしておき、朝方は窓を開けて通風をして過ごした。夏服は適度にゆとりのある服をきて換気しやすい工夫をすると涼しく過ごせるが、暑い地域の民族服にも工夫がこらされていて先人の知恵から学ぶことが多い。

## 2. 自然の脅威に対峙する被服衛生学

昨年は関東大震災の100周年記念でいろんなところで防災に関するイベントが多く開催された。震源が神奈川県だったこともあり、横浜国立大学でも内閣府主催の防災フォーラムが開催され、簡易トイレや備蓄、避難生活への備えなど防災について企業や大学発の活動が紹介されていた。今年は能登半島地震から始まり、宮崎の地震でその後、神奈川県でも地震があり、南海トラフ地震に備えるように啓蒙するニュースが流れ、震災が他人事でないことを実感し、気を引き締めて備えなければと思った。被服衛生学部会所属の先生方が研究成果を元に市民向け、学会員向けに地震に備えるための啓蒙活動をされている。地震をはじめ、い

つ来てもおかしくない災害に備えて物理的な備品のたくわえと共に知識の蓄積が必要である。

## 3. 被服衛生学部会の活動

夏期セミナーが部会長の潮田先生を中心に企画され東京家政大学で「スポーツの科学」というテーマでミズノ株式会社田中啓之氏に DX によるスポーツウエアの解析事例を、東京家政大学の内野美恵氏にパラリンピックの事例をもとにしたスポーツの栄養学のご講演をいただき、部会員3名からも研究発表いただいた。どの講演や研究発表についても、非常に活発な質疑応答が行われた。

また、公開講座が「衣服と健康の科学、最前線—座位の科学と健康—」をテーマとし、佐藤真理子先生を中心に企画され、オンラインにて開催された。座位と座面、下衣の設計に関する研究成果とその応用について、多角的な視点から4名の先生方にご講演いただいた。

被服衛生学は健康に資する衣服の在り方を模索する学問でその知見は自然から学ぶことが多いように思う。また、自然の脅威にさらされた時に健康を維持するためにも重要な知識を提供してくれる。部会の活動では最新の知見を学び、切磋琢磨することができた。コロナ禍が去り、夏期セミナーでは部会員同士が対面で集い、昨今の研究の動向や部会員の研究成果を共有できた。公開講座では遠隔の良さを生かし遠方からも参加者を得て盛会であった。部会員数が減少傾向であるが、今後も部会員が研究活動で刺激しあい、被服衛生学および家政学の発展に寄与することを目指して協力していけたらと思う。

## ＜連絡先＞

〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-2  
横浜国立大学教育学部 薩本弥生  
TEL: 045-339-3307 (研究室直通)  
Eメール: satumoto@ynu.ac.jp